

会 員 募 集

会員を募集しています。わたしたちの活動をご理解していただき、ご協力できるかた、ごいっしょにアジアでのボランティアを始めませんか。

(1) 入会金	正会員	1万円	団体正会員	3万円
	活動会員	なし	団体活動会員	3万円
	賛助会員	なし	団体賛助会員	なし
(2) 年会費	正会員	1万円	団体正会員	3万円
	活動会員	5千円	団体活動会員	3万円
	賛助会員	1口5千円	団体賛助会員	1口5千円

振り込み先

特定非営利活動法人T・M良薬センター
群馬銀行本店 普通口座 2134150
郵便局 00160-5-591781

特定非営利活動法人T・M良薬センター事務局
〒371-0852
群馬県前橋市総社町総社1024
(Tel&Fax) 027-254-2325
(E-mail) office@tmrc.jp
(HP) www.tmrc.jp



ロンゾークラブ 6



T・M良薬センター ニュースレター

スリランカ/ミャンマー/ベトナム/TMRCショッピング



ニュースレター第6号

平成17年1月30日
T・M良薬センター事務局
Tel・Fax: 027-254-2325
E-mail: office@tmrc.jp
http://www.tmrc.jp

スリランカ緊急支援

2004年12月26日に発生したスマトラ沖地震は類を見ない大災害となり、それによる大津波でアジア各地は甚大な被害を受けました。

TMRC は以前よりスリランカ北部アヌラーダプラにある孤児院の支援活動をしてきましたが、スリランカ事業のパートナーで、スリランカ仏教会から日本に派遣されているダンミッサラ師と北部アヌラーダプラで孤児院を運営するインダラタナ師から緊急の支援要請を受けました。

インド洋津波により、南東部に大きな被害を受けたスリランカでは死者が3万8千人を越え、100万人以上の人々が家を失い避難民となったのです。この史上最大の災害により、家を失い、家族を失った子供達が寺院に大勢集まってきているといます。被災者を物心両面で救い助けることは被害を受けなかった人の義務であるということです。現地から送られてきた手紙と写真を見ると、被災地の悲痛な叫びが耳に届くようで胸が締め付けられます。

TMRC は日蓮宗を通してスリランカ復興義援金を募り3月現地へ渡り、被災地を視察、孤児院の起工式を執り行なう予定となりました。また、群馬県内幼稚園等に協力を得、衣料品を収集し、2月末被災地へ海上輸送することが決定しました。



被災者へ救いの手を！！

TMRC ショッピング

皆さまこんばんはTMRCショッピングの時間です。本日まずご紹介する商品は、2500年以上の歴史を持つお釈迦様の子孫・釈迦族がつくるネパール伝統手芸品「テムちゃん」人形です。



一つ一つ心を込めてつくるこの人形は色別に様々な意味が込められています。例えば写真の水色のテムちゃんは「元気ハツラツ」という名前で、健康運の人形です。他にも金運、結婚運、交通安全、お受験などなど、全10種類のテムちゃん人形がそろっています。あなたに合った色のテムちゃん人形を見つけてみてはいかがでしょうか。携帯ストラップや、キーホルダーにも使えます。家族で、友達で、また恋人どうしで付けましょう。

1つ300円です。

詳しくはホームページで紹介しています。

続いてご紹介する商品はベトナム直輸入、蓮の実のお菓子「ほとけの実」です。原材料は蓮の実と砂糖のみ。完全無添加無着色で手作りの素朴な一品です。現在健康食品としても注目を集めている蓮の実は、養心、益腎、補脾の効能があるとされています。この「ほとけの実」は甘納豆のようにほのかに甘く、お茶うけにも最適です。一袋20粒入り100円です。



商品に関するお問い合わせはTMRCまでお願いします。

TMRCショッピングの収入は全て、アジアでの社会福祉事業に使われます。皆さまショッピングでボランティアしてみてもいいですか。

ベトナムプロジェクト

小野理事長、新井恵裕会員、ゲン・フォンTMRCベトナム事務所長は2004年12月10日～14日、3度目のベトナム現地調査を行いました。TMRCが窓口となり日蓮宗が国際協力事業としてベトナム仏教会と協同している「ベトナム日本仏教交流センター」の建設は完成間近だということです。

首都ハノイ近郊にあるベトナム仏教発祥の霊跡「仏跡寺」に平屋1棟。《事務室2部屋、ゲスルーム4部屋、食堂兼キッチン1部屋》

12/11に両者で覚え書を取り交わし、2005年9月完成の暁には「日蓮宗ベトナム仏教交流センター」の名称で日蓮宗が使用・運営し、アジア仏教諸国と交流の拠点として活用していただくことになりました。このセンターを中心に、かねてより調査して



建設中のセンター

ベトナム戦争で焼失した由緒寺院の再建を始めとする、ベトナム仏教会との協力事業を進めていき、アジアの平和と連携を計るモデルケースにしたいということです。



2004年5月よりTMRCベトナム事務所が置かれ、相互協力関係にあるJLHC(ハノイ日本語教育・人材開発センター)はベトナム教育省から正式に公認されている教育機関です。訪問した調査団一行は同センターの運営改善の必要を討議し、本格的に運営に介入することが決定しました。経営の責任者としてフォン所長が就任しました。昨今日本企業の進出が著しいハノイ近郊で同センターは大変有望だということです。

衣料品がスリランカの人々に届きました

2004年秋収集した衣料品(古着を含む)が、ダンミッサラ師とインドラタナ師を経て人々の手に届きました。海上輸送でスリランカへ、その後さらに小分けされた衣料品は山奥の村々へ、また孤児院などに届けられました。後日写真が届きました。大変喜ばれたとのことでした。



The victims were given dry-rations, clothes and other necessary items.



サイズの合わなかった服、ダンスに眠っている服など、大量消費国の日本で集められた衣料品は新品同様の物が多く、ミャンマーやスリランカではとても喜ばれる物ばかりです。また、現在モスマトラ沖地震を経て、衣料品収集中です。



ミャンマープロジェクト

田代副理事長、小川事務局長、小川光星氏は2004年11月29日から12月4日の日程で再びミャンマーを訪問しました。整体で障害者を助ける事業が進展していますが、今回は北部マングレーを中心に調査を行いました。その中でハンセン病患者を隔離している地域を見学し、衝撃を受けました。その地域にはハンセン病患者の親を持つ健全な子供達も地域内での生活を強いられているのです。何の罪のない大勢の子供達が経済的、衛生的に悪条件の環境から一生出ることができないのです。荒れ果てた国立の学校がありますが、全体の半数の子供はその学費一ヶ月100チャット(約10円)が払えず通うことが出来ません。親が妥当な仕事ができずにいるため当然の結果です。



一行は学校を管理しているその地域の住民に活動費から3万円寄付し、子供達にせめて最低限の教育を施したいと強く願いました。それはきっと将来このようなハンセン病村の悪循環を打破ることになるからです。帰国後役員会でハンセン病患者隔離地域内の学校建設事業が正式に決まりました。

せめて、現在よりは良い環境で子供達全員に勉強させてあげたいというこの事業はTMRCの本来の目的にも沿っている、ミャンマープロジェクトの主の事業となりました。

ホットニュース

2003年11月TMRCと合同視察をした藤岡南ロータリークラブは、同クラブ設立5周年記念事業として、ミャンマーの山村で井戸を掘り、寄贈することを検討中で、現在アウンウィンタンTMRCミャンマー事務所長がどの地域が適当か調査を行っています。

予防医学的な治療！職業訓練も

2005年夏オープン予定の「TMRC整体センター(仮)」はミャンマー第2の都市マングレーに拠点を置くことが決まりました。1年間期限付きで派遣が決まっている小川光星整体師(千葉県TDMサロン院長)はハンセン病村学校建設の監督・指導・運営を兼ねることとなり準備万端のようです。

昨年未の調査でマングレー「豎琴寺」内に開設されている日本語学校を訪問、学生に整体を施術し簡単な講義をしました。在校生400人以上というこの学校はTMRCミャンマー事務所長のアウンウィンタン氏が管理しています。積極的な生徒が多く、実際にデモンストレーションしてもらうなど関心を寄せました。

同センターでは整体による様々な治療が受けられるが、治療費の設定を敢えず、誰も気兼ねなく通院できるように運営される予定。また開院後は同日本語学校で全体の講義が開かれる予定です。ラメィン(マングレーから車で3時間)にある日本語学校の生徒など、郊外からも講義を受けに来たいという人もいます。また同センターが軌道に乗ってきたら、かねてより依頼を受けているヤンゴンの社会福祉省管轄ジミンダイ盲学校へも講義に行く予定です。



ミャンマー北部調査後小川光星氏は、「整体の指導者を増やすことも然り。ただ立派な学校を建設し、寄贈して終わりというのではなく、その地域に産業が生まれ、現地の方々の生活が向上するように“種”を植えて帰ってきたい。」と意気込みを話しました。

小川氏は2005年6月渡航予定。